

## 平成15年デジタルカメラ出荷見通し(改定)

平成15年 8月 20日  
カメラ映像機器工業会  
単位 :千台

	平成15年 1-6月実績	前年 同期比	平成15年 見通し	前年比(%)
総出荷	16,830	184.9	37,440	152.5
国内出荷	3,784	140.4	8,280	126.4
輸出	13,046	203.7	29,160	162.0

\*参考

	平成14年実績	前年比(%)	平成15年 年初予測	前年比(%)
総出荷	24,551	166.4	31,450	127.8
国内出荷	6,550	135.6	7,685	117.4
輸出	18,001	181.4	23,765	131.9

注 数値のうち四捨五入により計算の合わないものがある。

平成15年のデジタルカメラの出荷は、前半6ヶ月の実績を踏まえると、年初の見通しを上回り好調に推移している。

この様な状況下、当工業会では平成15年通年の出荷見通しの検討を実施した。

結果は別表の通りである。

なお、今回の見通しと年初の見通しの差異については以下によるものと推定される。

活発な新製品投入及び高画素モデルの低価格化が誘因となり、需要を活性化させた。

普及が遅れていた欧州・アジア地域で急激に需要が立ち上がり、当初懸念材料としていたイラク戦争といった不安要因にも影響されず、高い伸び率を継続した。

年初見通しは、1～10月の実績に基づいて行ったが、その後の11～12月における急激な伸びを、十分に反映しきれなかった。

\*銀塩カメラ見通しについて

銀塩カメラについては、デジタルカメラの進展の影響を受け、前半6ヶ月の経過は、年初見通しに対しやや弱含みに推移してきており、後半においてもこの傾向は継続し、通年では年初見通しをやや下回るものと判断している。

以上